

第1回「航空管制システム等の海外展開推進検討会」  
議事概要

---

---

日時：平成24年1月11日(水)13:30～15:00

場所：経済産業省別館会議室（8階827号室）

---

---

1. 出席者

資料② 配席表の通り。

2. 議事概要

(1) 開催趣旨について

○ 事務局

世界的に航空交通量が増大する中、アジア太平洋地区においては、特にその大きな伸びが予測されている。このような状況の中、世界各地で将来航空交通システム構想が策定され、その実現に向けた取り組みが進められている。航空局交通管制部の航空交通国際業務室では、昨年来、関係企業へのアンケートを実施するとともに、セミナー等開催時には、展示ブースの設置やプレゼンテーションを各企業と実施してきた。しかしながら、官民一体で活動を展開する欧米等と競争をしていくためには、我が国でも関係者が一体となって体系的に活動していくこと必要である。そのため、我が国における航空交通システム等の海外展開に資する活動の第一歩として、産学官の皆様にお集まりいただき、忌憚のないご意見やご経験をお伺いし、今後の方向性を見いだして行ければと考えている。

(2) 海外展開に関する背景・課題について

○ 事務局

まず、本件に関する背景と現状についてご説明させていただき、皆様よりご意見・ご質問等をお伺いしたい。

○ 委員の主な意見

- ・ 「航空交通システム」と「航空管制システム等」の言葉に意味の違いを教えて欲しい。  
→ (事務局) 「航空交通システム」とは、関連施設、設備等を指す総称の言葉であり、「航空管制システム等」とは、航空管制システムといったコンピュータ部分に特化したものではなく、航空管制機器、航空保安施設を含むものとして「等」をつけている。
- ・ 当社が手がけている海外向けプロジェクトを紹介させていただく。フィリピンの事業は、ATM・通信・航法・監視・気象の5つの分野が、パッケージ1, 2に分けられ、プロジェクトが進められている。マラウイは、25～30年前に作られた新空港に対してプロジェクトが行われており、苦しみながらやっている最中。  
→ (事務局) 航空局は各国に長期専門家を派遣しており、フィリピンもその一つ。それ以外にインドネシア、ベトナムにも派遣している。また、短期専門家も派遣しており、これらの専門家を活用して、情報共有等をさせていただければいいのではないかと考えている。

○ 事務局

次に、事務局のほうで抽出させていただいた本件に関する課題・問題点についてご説明させていただき、皆様よりご意見やご質問をお伺いできればと思う。

○ 委員

- ・ 日本より、シンガポールや香港の方が進んでいるのではないかと。例えば、ものの考え方に関する違いがある。
  - ・ 新幹線の売り込みでは、ハードをオペレーション、ノウハウとセットで売ろうとしている。管制についても、どういう形を目指すのか。また、日本企業で纏まる強みがあるのかどうか。そういうところをよく考えて検討してはどうか。
- (事務局) 航空局が、運用自体の輸出をするのは難しいが、教育支援と一体となったパッケージ化などが考えられる。また、海外の総合ベンダーに対し、日本の会社が1社で海外に売り込みも行くのは難しい状況かと思うが、どの会社と組むのかは各社の意向によるかと思う。
- ・ 海外の国では、物を入れてもそのまま機能しなくなるケースがあり、人材教育・訓練といったフォローを継続的に実施することが必要だと考えている。例えば、海外企業では、下請会社に維持管理を任せ、維持管理料などをとるなどしていると聞いている。
  - ・ 港湾関係の話で、日本のシステムはしっかり作られていて、メンテナンスやアップグレードは非常に安価で済むが、外国のシステムは更新時に高くなってしまったという話を聞いたことがある。タイプの違う国に対して、どういうビジネスモデルで売るかという視点が必要だと思う。

3. 今後のスケジュールについて

○ 事務局

次回以降の検討会の日程は資料の通り。

○ 委員

- ・ 海外展開を進めるには、相手国側がどのような状態にあるのかという理解が必要ではないか。第2回、第3回の中で、是非ともそういったところも検討に含めて欲しい。

以上